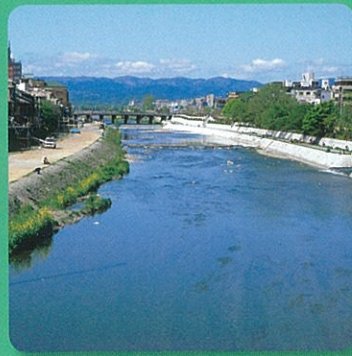




つながろう うみだそう

— 企業と福祉 京都から



社会貢献室 町家分室の設置

目指すは“いつも社会と共鳴する企業”
町家を開放し、人との交流・情報交換できる場に



(株)カスタネット 代表取締役社長 植木 力氏

概要

株式会社カスタネット
〒601-8033
京都市南区東九条南石田町5番地
京阪バス十条ビル
電話 075-681-9100
FAX 075-693-4625
メール contact@castanet.co.jp
URL <http://www.castanet.co.jp>
事業内容
大日本スクリーン製造株式会社の社内ベンチャー制度で生まれた会社であり、オフィス用品等販売をしています。

国内のみならず、 海外への社会貢献活動も展開

オフィス向け文房具販売の会社「株式会社カスタネット」の理念は、社会貢献活動と事業活動との両立。カスタネットは、植木力社長が大日本スクリーン製造株式会社の社内ベンチャー第1号として2001年に設立。社員10名でスタートした当時から、「社会貢献活動は“継続”することに意味がある」と考え、地道に活動し、少しずつ幅を広げてきている。

障害者スポーツの支援、小学校での講演活動などのほか、全国から不要な文房具を回収し、カンボジアの子どもたちに寄贈する活動から発展して、現地に小学校の新しい校舎も建設。寄付金に頼らず、オリジナルの「カスタ君クッキー」の販売や、使用済みのトナーカートリッ

ジを回収して得られた収益が財源となっている。

「町家SNS」でつながる、 人と事業

2006年には、中京区に「社会貢献室 町家分室」、通称「カスタ君の町家」を設置した。染め工房兼住宅だった昭和初期建築の町家の一部を同社の事務所に使い、坪庭に面した6畳の和室と縁側部分をフリースペースとして、学生やNPOなど一般に開放している。さらに、毎月第2金曜日に開催している交流会には、飛び入り参加を含め、主婦や学生、企業人、アーティストなどが集合。まさに“異業種交流会”として人気を博している。

四条烏丸に程近い京町家であれば、有料で「時間貸し」すれば収入につながるはず。だが、「はじめからビジネスを考えては成功しない。

人が集まるから、ビジネスにつながる」との考えから、あえて無料で開放。靴を脱ぎ、畳の上で丸いちゃぶ台を囲んで膝をつきあわせれば、本音の話がしやすくなる。そこから人脈やビジネスのアイデアが生まれるのだという。植木社長は、「まさにアナログ版SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）です。私はこれを“町家SNS”と呼んでいます」と話す。

アイデア光る！ 産廃扱いの点字用紙を再利用

実際に、視覚障害者のための福祉施設「京都ライトハウス」のスタッフが町家に寄った際、「点字用紙が余って困っている」とポロリと話したことがきっかけで、ひとつの事業へと展開した例がある。プラスチックを含んだ点字用紙が産業廃棄物扱いになることを知り、植木社長は、カスタ君クッキーの販売用手提げ袋の材料として再利用を提案。「点字がデザインになるし、作業は施設で行うので、利用者の仕事が増えた。それに、健常者が点字に触れるきっかけになるのもうれしいですね」と植木さんは笑顔を見せる。この成功に続き、点字用紙を使った名刺やDM、ライトスタンドなどを次々と発案中だ。



点字用紙をつかった名刺



個人の意思で社会貢献できる システムを構築

「創業時は、明日のカネがない！というところまで落ちたこともあった」が、現在は町家で築いた人脈と抜群の提案力で、会社としては京都・滋賀の業界売り上げ上位数本の指に入る業績を上げている。



「カスタ君クッキー」

今期の年商目標は7億円と、勢いに乗る。

今後は、インターネットの専用サイトも充実させる予定だ。サイト上で10円分の寄付がついた210円のクッキーと、同じもので寄付のつかない200円のクッキーを販売し、購入者が自分の意思で社会貢献できるシステムを構築。「社会的買い物カゴ＝ソーシャルバスケット」と命名し、商標登録の申請を。さらに、「営利企業であっても社会貢献を通じて、従業員も取引先も地域の人々も、みんなが自然と吸い寄せられるように集まる“マグネットカンパニー”を目指したいと思っています」と植木さん。今後もオリジナリティあふれる会社づくりを展開していく予定だ。